



10月の中旬ごろ、いきなり寒くなりました。それまでは最高気温が30度以上になる日があったのに、20度前後になるなど一気に晩秋を迎えたように思えます。

こんな時は体調を崩しやすくなるものです。ぜひお気をつけください。

視覚障害者のスポーツ

先日、行われたパラリンピックでは、多くのパラリンピアンが障害者スポーツの可能性を感じさせてくれました。当たり前ですが、パラリンピアンだけでなく、一般の障害者、もちろん視覚障害者も様々なスポーツを楽しんでいます。

マラソンなどの陸上競技をはじめ、水泳や球技はもちろん、自転車、トライアスロンといった意外に思える競技も楽しまれています。

今回はそんな視覚障害者のスポーツのうち、球技を中心に紹介したいと思います。

サウンドテーブルテニス

全国障害者スポーツ大会の競技のひとつで、視覚障害者が行う卓球です。

卓球台から4センチほどネットを上げ、その下をピンポン球を転がして競技を行います。シングルスとダブルスがあり、選手はアイマスクをつけてプレーします。(種目等により付けない場合もあります)

金属が入った音の鳴るピンポン玉を、打球音がわかるようにラバーのないラケットで打ちます。

また、卓球台は、球が落ちないように一部にフレームを取り付けた専用の卓球台を使用します。



ゴールボール

ゴールボールは、パラリンピック特有の競技です。鈴の入ったバスケットボール大のボールを互いに投げ合い、得点を競います。コート上の選手は3人で、選手は障害の程度に関わらず、「アイシェード」と呼ばれる目隠しを装着し、全盲状態でプレーします。そのため、ボールの中の鈴の音だけでボールの方向を判断し、キャッチしなければなりません。



ブラインドサッカー

ブラインドサッカーは、アイマスクをつけ、音の出るボールを使用して行う5人制サッカーです。選手は4名のフィールドプレイヤー、ゴールキーパーですが、その他に監督、ガイドが相手ゴール裏から指示などを行います。

ディフェンスがボールを持った相手に向かう時には「ホイ！」と声を出すなどルールも工夫されています。

通常のサッカーのようなスピーディで迫力のあるプレーには驚かされます。



フロアバレーボール

フロアバレーボールは、通常のバレーボールと違い、ネットを床から30cmの位置に張り、ボールは普通のバレーボールを使い、ネットと床の間を通します。

6人制で、前衛競技者はアイマスクを着用します。後衛競技者は主に弱視者が晴眼者となります。前衛競技者はボールの音や周りの指示などでブロックやキャッチをし、静止後にパスやアタックをします



避難訓練での配慮について

今年の8月に、武雄地区などで大雨による浸水被害などが発生しました。実はこの時、視覚障害を持つ方も被災されています。近年、豪雨や台風、地震などの天災による被害が増加しています。そして、こういう災害の際に障害のある方はスムーズな避難ができないことがあるようです。

学校では避難訓練が行われ、いざという時に備えています。見えにくさのある児童生徒には、より細やかな配慮が必要となります。今回はそれらの配慮についてお知らせをしたいと思います。

1. 災害・火災などが発生

地震の場合などは、「体を机の下に入れる」という指示があると思います。しかし、見えにくさがある場合、机の把握がしっかりできず、頭部を打ってしまうこともあります。まずは落ち着かせ、机を把握させた上で、机の下に入るようにさせましょう。



2. 児童・生徒の安全確保を行う

時間割によっては、休み時間などに見えにくさのある児童生徒が一人になるケースもあるかと思えます。事前に時間割と人員の状態を確認しておき、どの職員が対応し、避難誘導するのかを決めておきます。それに従って児童生徒の安全確保を行います。

3. 児童・生徒の避難誘導を行う

見えにくさのある児童生徒を避難誘導するときは、支援する人の肩や腕につかまってもらい、支援する人が半歩ほど前を歩いて、周りの状況を確認しながら誘導します。児童生徒の実態や周りの状況によっては、手をつないだり、横についたりという方法もあります。

避難誘導する際には、急いで歩調がずれたり、歩くスピードに差があったりすると、バランスをくずして転倒する危険があります。支援する人は慌てず、相手の歩調やスピードに合わせるようにしましょう。また、児童生徒が安心して避難できるように、どこに向かっているのか、どこを通っているのか、周りはどうなっているのかなど、周囲の状況などを伝えることも大切です。

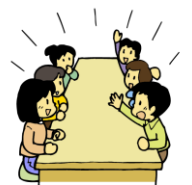
4. 避難場所に集合

避難場所に集合したとき、見えにくさのある児童生徒は、全体の状況を把握することが難しくなります。避難誘導をするときと同じように周囲の状況などを伝えましょう。また、火災の避難訓練の場合、消火訓練なども行われることがあります。消火器の使用練習で火を使うなど普段とは異なる状況で、何が行われているのか把握できないこともあります。

できるだけ細かく状況を知らせることが不安を取り除くこととなります。

5. 避難訓練後

- ・避難訓練が終わったら、役割分担や避難経路、誘導などに問題がなかったかを確認し、次回以降に備えましょう。



佐賀県でも「災害時要援護者支援マニュアル」が定められています。

(www.pref.saga.lg.jp/bousai/kiji003981)

また、厚生労働省は社会福祉法人日本盲人福祉委員会に委託し、平成24年に「災害時の視覚障害者支援マニュアル」を作成しています。

(www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/h24_kentoukai/2/pdf/5_4.pdf)

これらについても、確認されておくことを勧めます。

書籍などの紹介



「小・中学校における

視力の弱い子どもの学習支援・通常の学級を担当される先生方のために」

日本弱視教育研究会 企画 香川邦生・千田耕基 編 教育出版

小中学校の通常の学級に在籍する視力の弱い児童生徒についての理解と支援をまとめた本です。各教科の学習や日常的な支援についても具体的に書かれています。



「視力の弱い子どもの理解と支援」

大川原潔、香川邦生、他編 教育出版

視力の弱い子どもをいかに理解し、指導したらよいか。研究成果を踏まえ、様々な視点から解説されています。



「視覚障害教育に携わる方のために」

香川邦生 編著 慶應大学義塾出版会

目の機能の解説や視覚障害の歴史、教育課程や自立活動のあり方、各教科の指導や教材教具についてまで、幅広く紹介されています。



「新訂版 視覚障害教育入門 Q&A」

全国盲学校長会 編著 ジアース教育新社

障害理解、視覚障害教育の基礎、教科指導、自立活動、進路指導等について Q&A 方式で網羅された本です。



「新・視覚障害教育入門」

青柳まゆみ・鳥山由子 編著 ジアース教育新社

視覚障害児の教育と対象範囲、盲児・弱視児それぞれの指導の留意点、教科や自立活動の指導等ばかりではなく、視覚の仕組みなどについても説明されています。視覚障害教育についての概要をつかむことができます。



「ヤンキー君と白杖ガール」(KADOKAWA MF コミックス) うおやま 著

「弱視」のことを知ってもらうために、著者のうおやまさんが無料 Web サイトに連載された作品です。

通常図書はもちろん、デイジー図書、点字図書、音声ガイドつきボイスコミックにもなっています。



2021年10月期のドラマ『恋です！～ヤンキー君と白杖ガール～』の原作です。

盲学校に通う色と光がぼんやりわかる程度の弱視のユキコと、地元でも有名な札付きの『黒ヒヨウのモリ』ことヤンキーの黒川森生。

二人の恋の行方を描いたラブコメディです。弱視者の生活や心情がよくわかるドラマです。

(画像は日本テレビ公式サイ